

国際水質汚濁研究会議の開催について

岩 井 重 久*

昨年の夏ごろから、Harvard 大学の G.M. Fair 先生の推薦により、“International Journal of Air and Water Pollution” の発刊について、同先生をはじめとする 18 名の名誉編集委員の一人として参画するの榮をえた。さらにこの企画はソ連をふくめた欧米各国に日本を加えて、1962 年に水質汚濁に関する国際会議を開こうというところまで進展し、その期日、場所、テーマ、論文公募および参加者への招待方法などに関する欧米間のひんばんな打合せの結果はそのつど報告を受けたし、筆者の個人的な意見も進言した。この会議については、国内の 70 を上まわる大学、研究所、学会、協会などに筆者からすでにその主旨を伝え、論文および意見の提出かたを依頼した。なにぶん多数の国々から参加希望があり、各ブロックごとからの意見の調整に時日を要し、また、たびたび方針が変わったために混乱をきたしたが、今般ほぼ最終的な案が送られてきたのでその概要を次に報告し、今後における日本の土木学会および同会員諸氏の協力をえたいと思う。

1. 会議名：国際水質汚濁防止研究会議 (International Conference on Water Pollution Research)

2. 期日、場所：1962 年 9 月 3~7 日、ロンドン市

3. 運営委員会：

- (1) 米大陸および日本：(W. Wesley Eckenfelder, Jr. 教授、ほか 17 名、うち日本からは筆者)
- (2) 英国：(B.A. Southgate 博士、ほか 9 名)
- (3) 欧州：(E. Leclerc 教授、ほか 6 名)
- (4) ソ連：(C.M. Drachev 教授)

4. 主催機関

- (1) アメリカ：The Water Pollution Control Federation, その他の多数の学会、協会
- (2) イギリス：The Institute of Sewage Purification, The River Boards Association, The Scottish River Purification Boards, Federated British Industries.
- (3) 国連：World Health Organization.
- (4) フランス：Organization for Economic Co-operation and Development.
- (5) ドイツ：Abwassertechnische Vereinigung.

5. 本会議の性格と目的：各種排水の淡水河川湖沼および海洋環境におよぼす影響を明らかにし、一方では排水処理法の効率改善と経済化とをはかるための研究は、世界的に重要視されてきている。出版、言語の関係上、今まで各地域ごとで行なわれた研究の手法やその成果はあまり交流されなかったが、本会議は各国の研究者に、

現今までの研究の発展過程を回顧し、これをさらに発展させ、かつは他国の研究者と意見を交換しうるような機会を与えるために計画されたのである。すなわち、従来から局所的には行なわれていたこの種の会議と交見との範囲を拡大させ、世界各国の研究者の間で、研究の手法、成果および研究活動についての直接交流をはかることを目的とする。ロンドン市を開催地に選んだのは、世界中からの参会者に対する便宜を考えたからである。なお本会議はこの分野における唯一の国際会議であるといえる。

6. 本会議の主眼：

- (1) この分野の研究に従事している世界各地の化学者、生物学者、工学者が一堂に会し 1 週間の会議をもつ。
- (2) 欧、米、アジアおよび未開発諸国からの研究者間で、この分野における科学技術上の連絡と協力との機会を与える。
- (3) 自浄作用等々の主題ごとに、研究上の最近の進歩状況を総合的に紹介する。

7. 本会議のプログラム：次の 3 つのシンポジウムにわけて進行させる。

- (1) 淡水河川の自浄作用と汚濁の漁業におよぼす影響 (議長は B.A. Southgate 博士)
- (2) 下水および産業排水の処理 (議長は W.W. Eckenfelder, Jr. 教授)
- (3) 汚濁の海洋環境におよぼす影響 (議長は E. Pearson 博士)

各シンポジウムごとに最大数 16 編の論文をとりあげる。これらの論文は、あらかじめ公募により集められた 500 語の論文概要について、全地域の委員がその内容を慎重に検討した上、全委員の総意にもとづいて採択し、予稿として印刷する。これらは公式討議論文とともに改めて議事録に採録、公刊される。論文選考の予定は次のとおりとする。

- a. 論文概要を公募する旨の発表 (1961 年 4 月 30 日)
- b. 論文概要の締切り (1961 年 6 月 30 日)
- c. 採択された論文原稿締切り (1961 年 12 月 1 日)
- d. 同上の予稿の印刷開始 (1962 年 3 月 31 日)
- e. 会議参加者へ上記予稿配布 (1962 年 6 月 1 日)

8. 公刊および予稿の配布：採択された論文の概要はすべて 1962 年 3 月号の“Water Pollution Control”誌上に掲載する。論文の本文は会議前に Pergamon Press, Oxford, England によって予稿として印刷される。本会議の時に十分に活発な討議が行なわれうるように、これを参会者にあらかじめ配布する。公式討議論文で採択されたものは、印刷の上会場で配布され、議事録に掲載

* 正員 工博 京都大学教授、工学部衛生工学教室

される。本年6月20日までに、わが国関係で総数19編の概要が集まったが、これらは筆者からニューヨークにある委員会本部へ転送した。これらの採択について意見を求められる場合には、わが国の権威者達の意見を伺った上で、民主的な方法で意見書を作成したいと思っている。委員会のメンバーは筆者の外は最高権威者（主として土木出身の衛生工学者）ばかりであり、彼らに互して本会議の運営に参画する機会をえたことは非常に光栄であるが、一方ではその任の重いことをうれえている。またこれを機会に国際的学界の設立などの話も当然起こると思われ、よろしく諸賢の御後援をお願いする次第である。

なお、この国際会議への参加希望者には種々の便宜が与えられるという通知を委員会本部から受けているので、論文提出の有無にかかわらず、希望者各位にはなるべく早く下記宛にその旨御一報を賜りたいと思う。

京都市左京区吉田本町 京都大学工学部 衛生工学教室
教授 岩井重久

直接問合せの場合は：

Professor W. Wesley Eckenfelder, Jr.,
Civil Engineering Department
Manhattan College,
New York 71, N.Y., U.S.A.

(原稿受付：1961.7.5)

昭和37年度科学研究費等の公募期日お知らせ

研究の種類	提出期間	必要書類	提出部数
総合研究	2月12日(月)～ 17日(土)正午	総合研究計画調書、承諾書、カード(以上研究代表者作成) 総合研究計画調書一覧(研究機関長作成)	研究者ごとに各1 2
科学試験研究		科学試験研究計画調書、承諾書、カード(以上研究代表者作成) 科学試験研究計画調書一覧(研究機関長作成)	研究者ごとに各1 2
機関研究	2月5日(月)～ 10日(土)正午	機関研究計画調書(研究者作成) 機関研究計画調書一覧(研究機関代表者作成)	2 1
各個研究		各個研究計画調書(研究者作成) 各個研究計画調書一覧(研究機関代表者作成)	1 2
以上の取扱いは、文部省大学学術局研究助成課(電話(581)4211 内線243,441)			
研究成果の刊行 学術図書 二次刊行物	2月5日(月)～ 10日(土)正午	学術定期刊行物刊行計画調書、最近の取支予算および決算報告、カード(学協会等の代表者作成)	各1
		学術図書刊行計画調書、出版経費見積書、カード(著作権者作成)	各1
		二次刊行物刊行計画調書、出版経費見積書、カード(二次刊行物の刊行者作成)	各1

以上の取扱いは、文部省大学学術局学術情報室(電話(581)4211 内線432,216)
備考：申請用紙は、日本学術振興会(東京都台東区上野公園内)取扱いのものを使用すること。

